

私は中3から医学コースに入りました。中学生の頃、自分は絶対医者になりたいと思っていたわけではなく、将来の選択肢の一つとして医療関係の仕事もいいなと感じていたため医学コースで医学の分野の関心を深めることができると思い医学コースに所属しました。当時はコロナ禍でもあり、あまり実践的なことはできませんでしたが、コロナ禍でもできる活動を通じてチームワークの大切さなどたくさんのことを習得できました。医療従事者の方の話を聞くことができ、医学においてはもちろんのこと、その他の分野においても大切なことを学ぶことができました。私は医療の道に進むのはやめてしまいましたが、医学コースで得た経験は無駄になっていないと思っています。また、少し医療に興味があるが、まだ詳しく分からないと感じている人でも医学コースで医療の道というのはどのようなものなのか理解し、自分に合っているのか知ることができると思います。そのため、自分の進路を考える1つの方法として医学コースの所属を考えてみてもよいのではないかと考えています。課外授業においては放課後自分の得意分野を伸ばすための課外や、苦手分野を克服するための課外があり、自分にベストなレベルを選択でき、放課後の勉強にとっても役に立ちます。

研修旅行ではコロナ禍の影響で中学の時は中止、高校の時は海外が国内に変更になりました。しかし、国内だからといって充実していないわけではなく、とても満足した研修旅行でした。友達とともに訪れる場所の計画をし、現地では計画通り行くことばかりでもなく、柔軟に対応して友情を深め合うことができたと思います。また、旅行先で撮った写真は忘れることのないものになっていると感じます。体育祭では中学の3年間チームは変わりません。そのため、団結力が増し、自分が所属する色のチームはとても思い入れのあるものになっていきます。また、高2と高3の間の春休みに希望制で短期留学のプログラムがあります。高校生の間に海外への留学の経験というものはとても貴重なものだと感じたため参加しました。異文化に触れることで今までとは違う考え方を学び、自分でどのように解決するか考えることを身に着けることができると思います。また、英語学習の意欲の向上にもつながると思います。

学年の先生が6年間変わらないので、学年が上がるごとに先生との関係も深くなり、学校生活がすごく楽しく、居心地の良いものとなります。また、勉強面の質問においては、学年の先生のみならず、他の学年の先生も質問に答えてくれるため、素早く問題を解決することができると思います。一回の質問では上手く理解できなくても、何回質問しても嫌な顔一つせず対応してくれます。実際私も、同じ質問を何度もしたことがありましたが、親身になってわかるまで教えてくれた記憶があります。また、私は1人の先生だけでなく、いろいろな先生に質問することもありました。先生によって問題へのアプローチが異なることもあるので、その中で自分の納得いく方法を模索していました。友達関係では、6年間一緒ということもあり、同じ学年のメンバーは特別な存在とを感じるようになると思います。大切な忘れられない友達との最高の思い出を築くことができます。私が入学したときは同じ小学校の友達はおらず、楽しく過ごせるのか不安でしたが、今茨中・茨高で過ごしたこの6年を振り返ると、何一つ後悔や悔いはなく、この学校で良かったなと感じる思い出しかありません。これらのことから学校における勉強面だけでなく友達関係などを含むすべての生活が楽しく充実したものになると思います。

大学では学ぶことが専門的なものになるのでしっかりと学習し自分の将来に役に立つように過ごしていきたいと思っています。私が目指している一級建築士になれるように頑張りたいです。また建築士の資格を活かして建物一つ一つに目を向けるだけでなく、地域社会を1つのものとしてとらえて人々が住みやすいまちづくりに貢献していきたいと考えています。